

佐賀大学美術館
事業報告及び
自己点検・評価報告書
令和2年度

令和3年12月

佐賀大学
美術館

目 次

I	佐賀大学美術館の現況及び特徴	
1	概 要	p. 1
2	沿 革	p. 2
3	施設概要	p. 3
4	令和2年度の活動	
1)	展示記録(主催)・活動記録	p. 4
2)	展示記録(企画申請)	p. 15
3)	実習	p. 23
4)	刊行・掲載・見学	p. 25
5)	寄付	p. 27
6)	職員の館外調査研究・研修等	p. 27
7)	新収蔵作品	p. 28
8)	入館者数	p. 30
II	自己点検・評価	p. 31
1	令和2年度の主な活動に関する自己点検・評価	
2	今後の課題等	

I 佐賀大学美術館の現況及び特徴

1 概要

平成 25 年 10 月、旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合 10 周年記念事業の一つとして開館。美術館と併せて整備された正門エリアは「地域に開かれた大学」という佐賀大学の理念を象徴し、門扉のない低い正門、そして、水平線が強調され、ガラス張りのファサード（正面）をもつ美術館から成る。そして、佐賀大学美術館は、より多くの人に総合大学である佐賀大学の魅力を知っていただくための情報発信の場として建設された。

平成 15 年の国立大学法人法の制定以来、国立大学はそれまで以上にそれぞれの特徴を打ち出し、存在意義を明確にしなければならなくなった。佐賀大学の特色や強みは何かと言われたとき、60 年以上の歴史を誇り、多くの優れた美術・工芸分野の教員、作家、デザイナーなどを輩出してきた美術・工芸教室の実績は地域に確たる歴史を刻んでいる。このような歴史と実績を背景とし、新生佐賀大学の 10 周年を記念する事業の一つとして、佐賀大学美術館建設はスタートした。総合大学であるにもかかわらず、博物館や資料館ではなく、美術館が建てられた理由もそこにある。

一方、佐賀大学は「COC（センター・オブ・コミュニティ）」を大学の理念として掲げている。すなわち、佐賀大学の大学としての大きな存在意義とは、地域貢献にある。佐賀大学は、佐賀大学美術館を通して地域の文化芸術の促進に貢献するとともに、佐賀大学美術館が地域の人々のコミュニケーションの場となる使命を有するのは、そのような理由があるからである。

佐賀大学美術館は、佐賀大学が所有する資料の公開や、特別教科（美術・工芸）教員養成課程以来の美術作品を収集・保管・展示するとともに、美術の新しい活動や表現を地域の人々とともに作り上げていく。また、佐賀大学美術館は、総合大学が生み出すさまざまな研究成果を周知・公開していく。

博物館法に定められた美術館の機能である 1) 調査・研究 2) 資料の収集・保存・公開 3) 教育普及の柱を堅持しつつ、なおかつ佐賀大学美術館は、これらの機能に加えて大学の研究教育機関としての役割、すなわち、全学的な教育研究成果の発表、美術教育研究成果のアーカイブ化などを果たしていく。このような「社会教育の場」であるとともに、「大学の教育研究機関」でもあるという位置付けこそが佐賀大学美術館の特徴であり、学生の教育のために積極的にその場を提供し、また、美術館自体も博物館活動を通じて学生への教育を担う。

(参考)

佐賀大学美術館設置までの主な経緯（役員会での決定等）

- | | |
|------------------|--|
| 平成 23 年 6 月 8 日 | 美術館設置諮問委員会からの答申を報告し、美術館・正門整備委員会の設置を審議・了承 |
| 平成 24 年 1 月 25 日 | 平成 23 年度補正予算（第 2 次）案で基本設計費の審議・了承 |
| 平成 24 年 2 月 22 日 | 基本設計のイメージ説明、募金趣意書等を審議・了承 |
| 平成 24 年 6 月 20 日 | 平成 24 年度補正予算（第 1 次）案で実施設計費、建設費の審議・了承 |
| 平成 25 年 6 月 26 日 | 佐賀大学美術館規則等の制定 |

2 沿 革

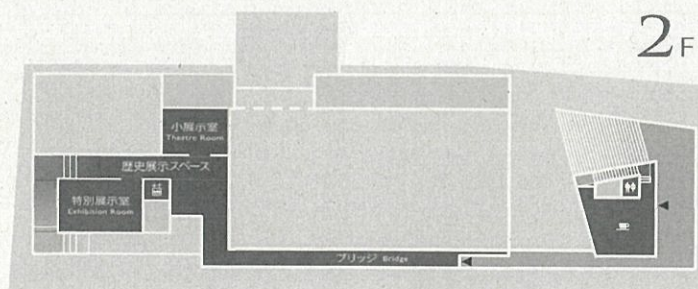
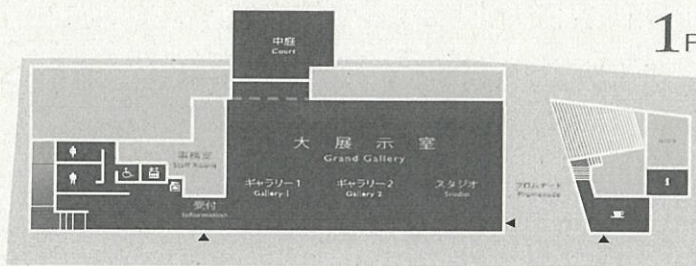
- 平成23年 1月 4日 学長年頭挨拶で美術館設置計画を発表
- 平成23年 6月 8日 役員会にて美術館設置諮問委員会からの答申書を報告
美術館の設置を審議・了承
- 平成23年12月20日 美術館基本設計建設コンサルタント選定委員会
- 平成24年 2月22日 役員会にて基本設計のイメージを説明。募金趣意書を了承
- 平成24年 5月14日 基本設計納入
- 平成24年12月29日 美術館実施設計終了
- 平成25年 2月14日 新営工事起工式
- 平成25年 6月26日 美術館規則、美術館運営委員会規程制定
- 平成25年 8月30日 美術館建設工事竣工
- 平成25年 9月28日 佐賀大学統合10周年記念式典・佐賀大学美術館開館記念式典
- 平成25年10月 2日 一般公開開始
- 平成26年10月24日 入館者5万人達成
- 平成27年 1月22日 第18回佐賀市景観賞表彰式
- 平成28年 2月19日 入館者10万人達成
- 平成30年 12月9日 入館者20万人達成
- 令和 2年 1月7日 入館者25万人達成

3 施設概要

人 称	佐賀大学美術館（通称 SUAM）			
所 在 地	佐賀市本庄町1番地			
構 造	鉄骨造・地上2階建			
延床面積	1,502㎡			
展示面積	462㎡			
	ギャラリー1	106㎡	ギャラリー2	106㎡
	スタジオ	111㎡	特別展示室	48㎡
	小展示室	34㎡	歴史展示スペース	57㎡

その他
 設 備
 併 設
 プロムナード 中庭 ブリッジ
 トイレ 多目的トイレ ロッカー
 なし

開館時間 10時00分～17時00分
 休 館 日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日，年末年始，夏季休業期間）



4 令和2年度の活動

1. 展示記録（主催）

常設展示 第2期

《展覧会概要》

2013年の開館以来、佐賀大学美術館は、佐賀大学の美術教員はじめ佐賀にゆかりのある作家達の芸術作品を収集し、現在は90点以上の作品を収蔵している。常設展では、当館のコレクションを恒常的に学生はじめ地域の方々に一般公開し、佐賀や佐賀大学における美術の様相を紹介する。

第2期では、令和元年度に新たに当館に収蔵された寄贈作品を公開した。本学前身の一つである佐賀師範学校で美術教員として働いていた山口亮一と彼が教え子たちに描かせた慰問絵巻や本学教育学部教授で美術教育をになった深川善次の人物油彩画の展示を行った。

《会期》2020年11月6日（金）～3月28日（日）

《開館日数》110日間

《会場》特別展示室

《主催》佐賀大学美術館

《展示構成》西洋画4点、資料7点 合計11点

《入館者数》4,015人

《広報物》外看板、HP、FB

《配布資料》目録

佐賀大学美術館常設展第2期

2020.11.6(金)～2021.3.28(日)



作品名	作者	題目/材質	制作年	サイズ(横)	所蔵番号
慰問絵巻	山口亮一	油彩・カンヴァス	大正10年(1921)	81.0×102.0	佐賀大美術館
山口亮一	山口亮一	油彩・カンヴァス	不詳	96.0×120.0	佐賀大美術館
山口亮一	山口亮一	油彩・カンヴァス	不詳	73.0×90.0	佐賀大美術館
深川善次	深川善次	油彩・紙	昭和17(1942)	17.0×14.0	国蔵 国蔵明治
深川善次	深川善次	油彩・紙	昭和17(1942)	17.0×13.0	国蔵 国蔵明治
山口亮一	山口亮一	油彩・紙	昭和12(1937)	88.0×65.0	国蔵 国蔵明治
山口亮一	山口亮一	油彩・紙	昭和17(1942)	10.0×43.0	国蔵 国蔵明治
山口亮一	山口亮一	油彩・紙	昭和17(1942)	10.0×23.0	国蔵 国蔵明治
山口亮一	山口亮一	油彩・紙	昭和17(1942)	10.0×21.0	国蔵 国蔵明治
山口亮一	山口亮一	油彩・紙	昭和17(1942)	10.0×20.0	国蔵 国蔵明治
山口亮一	山口亮一	油彩・紙	昭和17(1942)	10.0×14.0	国蔵 国蔵明治

目録



出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	素材	寄贈者等
1	山口 亮一	菊	1914	油彩、カンヴァス	佐賀大学蔵
2	山口 亮一	庭に咲く花	不明	油彩、カンヴァス	佐賀大学蔵
3	山口 亮一	菊	不明	油彩、カンヴァス	佐賀大学蔵
4	山口 亮一	慰問絵巻	1942	水彩・紙	井崎 満洲男 氏
5	山口 亮一	慰問絵巻	1942	水彩・紙	井崎 満洲男 氏
6	深川 善次	村岡宅美先生像	1967	油彩、カンヴァス	村山 卓雄 氏
7	松尾 豊治	慰問絵巻	1942	水彩・紙	井崎 満洲男 氏
8	石倉 博	慰問絵巻	1942	水彩・紙	井崎 満洲男 氏
9	石崎 寛	慰問絵巻	1942	水彩・紙	井崎 満洲男 氏
10	竹下 義行	慰問絵巻	1942	水彩・紙	井崎 満洲男 氏
11	田村 進	慰問絵巻	1942	水彩・紙	井崎 満洲男 氏



美術館で身体を考える

《展覧会概要》

「身体」というテーマを軸に、医学部や芸術地域デザイン学部はじめ学内の他機関と連携することで、美術や美術教育の歴史、そして医学発展の足跡や日進月歩する今日の医療技術など、学内の活動とその成果を広く紹介した。地域の知と文化の拠点たる大学美術館が「身体」の多様な姿をアートや歴史資料を通して提示することにより、地域の未来を担う若い世代の人々に、これからのダイバーシティ社会について積極的な再考を促す展示となった。

《会期》2020年9月29日（火）～10月25日（日）

《開館日数》24日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室、特別展示室

《主催》佐賀大学美術館

《協力》佐賀大学芸術地域デザイン学部、佐賀大学医学部、佐賀大学地域学歴史文化研究センター

《後援》佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀市

《展示構成》西洋画11点、彫塑3点、資料等45点 合計59点

《入館者数》1,896人

《広報物》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《発行物》図録、チラシ、ポスター

《関連事業》講演会：テーマ「身体とアート」講師パフォーマー 坂井 存

日時：令和2年10月9日（金）15:00～17:00

会場：スタジオ前

《関連事業》ギャラリートーク

日時：令和2年10月11日（日）、18日（日）、25日（日）

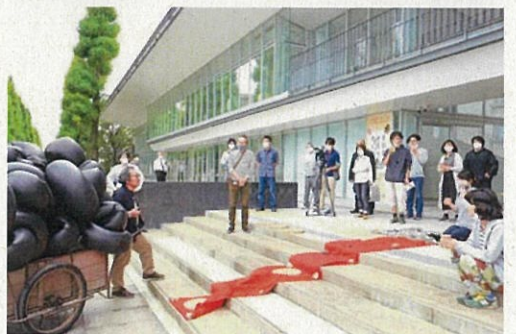
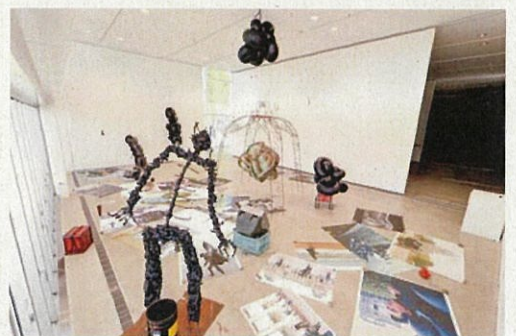
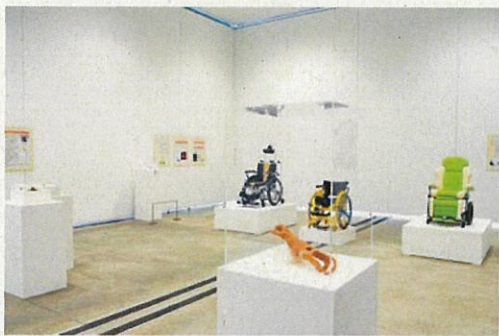
15:00～15:40

場所：ギャラリー1、2、スタジオ、特別展示室



チラシ





出品リスト

No.	作家名、開発等	作品名	制作年	素材	所蔵
1	レオナルド・ダ・ヴィンチ	解剖手稿	1982年出版	ファクシミリ版	佐賀大学附属図書館医学部分館
2	アンドレアス・ヴェサリウス	『人体の構造』	1555年(第2版)	紙、木版	九州大学附属図書館医学図書館
3	シャルル・エティエンヌ	『人体各部解剖』	1545年	紙、木版	町田市立国際版画美術館
4	寺島 良安 編	『和漢三才図会』	1712年頃	紙、木版	佐賀大学図書館(小城鍋島文庫)
5	山脇 東洋	『蔵志』	1759年	紙、木版、着色	個人
6	杉田 玄白、前野 良沢、他	『解体新書』	1774年	紙、木版	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
7	ヨハン・アダム・クルムス	『解剖図表』(複製)	1731年版複製	書籍	個人
8	相良 柳逸	「人工体普録」	1868-1869年	紙、墨書	佐賀大学附属図書館(小城鍋島文庫)
9	各務文献	『整骨新書』	1810年	紙、木版	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
10	三雲 環善 編	『施薬院解男体臓図』(写)	-	紙、墨画、着色	個人
11	宇田川 玄真	『西説医範提綱内象銅版図』	1808年	紙、銅版	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
12	ビエール・ニコラ・ジェルディ	『画家や彫刻家、手術に応用した人体の体表解剖学』	1829年	書籍	日本体育大学図書館
13	ヘンリ・グレイ	『記述解剖学および外科解剖学』	1918年(第17版)	書籍	日本体育大学図書館
14	松村 矩明 訳	「虞列伊氏解剖訓蒙図」	1872年版再刻	紙、銅版、着色	個人蔵
15	-	医業免札姓名簿	1851年-1858年	紙、墨書	佐賀県医療センター好生館(佐賀城本丸歴史館寄託)
16	-	神田洞民医術(道)開業免札	1862年	紙、墨書	個人(佐賀県立佐賀城本丸歴史館寄託)
17	牧春堂	引痘新法全書	1846年	紙、木版	佐賀県医療センター好生館(佐賀城本丸歴史館寄託)
18	松尾 徳明	引痘方諸控	1859年4月-1860年6月	紙、墨書	佐賀県立博物館
19	久米 桂一郎	裸婦習作	1889年	カンバス、油彩	久米美術館
20	久米 桂一郎	美術解剖学の講義メモ	-	紙、墨書	久米美術館
21	久米 桂一郎	美術解剖学の講義スケッチ	-	紙、インク、着色	久米美術館
22	久米 桂一郎	美術解剖学の講義スケッチ	-	紙、インク、着色	久米美術館
23	岡田 三郎助 旧蔵	マリエッタ・ストロッチの胸像	-	石膏	佐賀県立美術館
24	岡田 三郎助 旧蔵	エルチェの貴婦人	-	石膏	佐賀県立美術館
25	岡田 三郎助	坐裸婦(習作)	1913年頃	コンテ、紙	佐賀県立美術館
26	藤島 武二	裸婦	1920年代	油彩、カンバス	佐賀県立美術館
27	石本 秀雄	パリのモデル	1964年頃	コンテ、灰色紙	佐賀大学美術館
28	石本 秀雄	オーバーの女	1960年	油彩、カンバス	佐賀大学美術館
29	石本 秀雄	スケッチブック	1928-31年	水彩、鉛筆、紙	佐賀大学美術館
30	海老原 喜之助	人物	-	インク、紙	佐賀大学美術館
31	村岡 平蔵	若いからだ	昭和50年代	油彩、カンバス	佐賀大学美術館
32	村岡 平蔵	かがみ	1984年	油彩、カンバス	佐賀大学美術館
33	村岡 平蔵	多摩	1948年	油彩、カンバス	佐賀大学美術館

No.	作家名、開発等	作品名	制作年	素材	所蔵
34	小木曾 誠	地の声	2012-2013年	油彩、テンペラ、パネル、白亜地	個人
35	小木曾 誠	すすきの道	2018年	油彩、テンペラ、パネル、白亜地	個人
36	古賀 忠雄	男の顔	-	石膏	佐賀大学美術館
37	徳安 和博	アンドロメダとペルセウス	-	FRP	個人
38					
39	明石 道昭	メーブルシロップ尿症の治療に羊膜上細胞を使用する研究の説明イラスト	-	CG	個人
40	佐藤 良孝	脳外側面(上)・脳生中矢状断(下)	-	CG	個人
41	金井 裕也	心臓の構造	-	CG	個人
42	レオン・佐久間	腹腔鏡補助下胃全摘術後のLinear staplerを用いたRoux-en Y 再建法	-	CG	個人
43	オットーボックジャパン	筋電義手	-	-	佐賀大学、有限会社佐賀有蘭義肢製作所
44	松尾 清美、田中 晃一	多機能車椅子	2010年(翌年、特許取得)	-	個人
45	松尾 清美	6輪車椅子	2010年(同年、特許取得)	-	個人
46	松尾 清美、田中 晃一、株式会社ミキ工業所	セルフクリーニング車椅子	2018年(同年、特許取得)	-	個人
47	佐賀大学、京セラ株式会社	AG-PROTEX 人工股関節	2012年	-	個人
48	佐賀大学医学部、株式会社サイフューズ、澁谷工業株式会社	Scaffold Free 細胞製人工血管、剣山	2013年	-	個人
49					
50-1	坂井 存	放射性重い荷物:炉-震源地 Radioactive Heavy Duty : Reactor-epicenter	2020年	FRP、ゴム、鉄、ゴム板、木材、写真、テレビモニター3台	個人
50-2	坂井 存	護謨人間(4体) Rubber Man	2020年	ゴム、鉄	個人
50-3	坂井 存	重い荷物 Heavy Duty	2020年	ゴム、リヤカー	個人
50-4	坂井 存	動く茶室 Mobile Tea House	2020年	木材、金属	個人
50-5	坂井 存	赤い誘惑 Red Temptation	2000年	FRP	個人
50-6	坂井 存	黒い雲(2体) Black Clouds	2020年	ゴム	個人
50-7	坂井 存	重い荷物 Heavy Duty	2020年	ゴム、背負子	個人
50-8	坂井 存	重い荷物 Heavy Duty	2020年	ゴム、ベビーカー	個人
50-9	坂井 存	重い荷物 Heavy Duty	2020年	ゴム、手押し車	個人
50-10		放射性重い荷物-パンドラの箱 Radioactive Heavy Duty -Pandora's Box	2011年	木材、金属、プラスチック	個人

北嶋兵一が見た景色

《展覧会概要》

小城市牛津町出身の画家北嶋兵一は、日本画と西洋画を学び、佐賀藩主鍋島直正の一生を描いた「直正公御実歴一百図」を担当した。また戦後は、地域の風景を題材にした油彩画を残した。佐賀に暮らした画家としての作品を展示した。

《会期》2020年12月15日（火）～20日（日）

《開館日数》6日間

《会場》小展示室

《主催》佐賀大学地域学歴史文化研究センター・佐賀大学美術館

《展示構成》西洋画9点、資料6点 合計15点

《入館者数》679人

《広報物》HP、FB、チラシ

《配布資料》目録

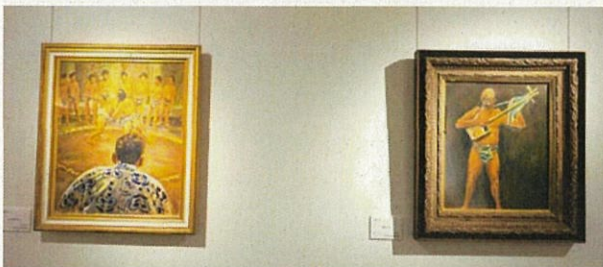


チラシ



出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	素材	所蔵
1	北嶋 兵一	天山	1972	油彩、カンヴァス	小城市立歴史資料館
2	北嶋 兵一	龍王河岸	1962	油彩、カンヴァス	小城市立歴史資料館
3	北嶋 兵一	牛尾山権現堂石段と古塀	1973	油彩、カンヴァス	小城市立歴史資料館
4	北嶋 兵一	長崎伊王島教会	1975	油彩、カンヴァス	小城市立歴史資料館
5	北嶋 兵一	角力部屋けいこ	1972	油彩、カンヴァス	小城市立歴史資料館
6	北嶋 兵一	裸の大將	1974	油彩、カンヴァス	小城市立歴史資料館
7	北嶋 兵一	水盤のどんぼう	1969	油彩、カンヴァス	小城市立歴史資料館
8	北嶋 兵一	雪の朝	1977	油彩、カンヴァス	小城市立歴史資料館
9	北嶋 兵一	田植えの頃	1975	油彩、カンヴァス	小城市立歴史資料館
10	北嶋 兵一	名護屋城跡	1979	色紙	小城市立歴史資料館
11	北嶋 兵一	浮立鐘たたき	1981	色紙	小城市立歴史資料館
12	北嶋 兵一	むつごろう	1981	色紙	小城市立歴史資料館
13	北嶋 兵一	つるし柿	1982	色紙	小城市立歴史資料館
14	北嶋 兵一	記録 北嶋兵一	1944	スクラップブック	小城市立歴史資料館
15	北嶋 兵一	「鍋島直正公御実歴一百図」	1933	色紙	公益財団法人鍋島報効会



活動記録

コロナ禍のさなか奮闘される医療従事者の皆様への感謝と激励を込めて世界各地で実施されている、ブルーライトアップムーブメントに賛同し、ブルーライトカラーを美術館東側窓にライトアップした。

ブルーライトアップ

《活動概要》

美術館内において、自在に調色可能なLED電球を使用し、正面のガラスを通して建物を青く浮かび上がらせる内照式ライトアップを行った。本学医学部附属病院はもとより、地元の医療関係者の皆様への感謝と敬意、激励のメッセージとした。

《会期》2020年4月30日（木）～12月27日（日）

※9月1日（火）～29日（火）は除く

《事業日数》213日間

《主催》佐賀大学美術館

《企画総括》荒木博申 芸術地域デザイン学部教授/佐賀大学美術館副館長



世界アルツハイマー月間にあわせて、認知症サポーターのシンボルカラーであるオレンジカラーを美術館東側窓にライトアップした。

オレンジライトアップ

《活動概要》

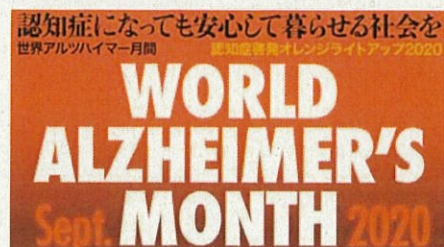
美術館内において、自在に調色可能なLED電球を使用し、正面のガラスを通して建物をオレンジ色に浮かび上がらせる内照式ライトアップを行った。大学関係者はもとより広く一般市民に認知症への正しい理解が進むように今後も取組を行うメッセージとした。

《会期》2020年9月1日（火）～9月29日（火）

《事業日数》29日間

《主催》佐賀大学美術館

《企画総括》荒木博申 芸術地域デザイン学部教授/佐賀大学美術館副館長



一般社団法人佐賀県観光連盟が県内観光施設・宿泊施設への誘客拡大と県内周遊観光の促進を目的とした「佐賀県×ゾンビランドサガスタンプラリー」キャンペーンへ参加した。

「佐賀県×ゾンビランドサガスタンプラリー」キャンペーン

《活動概要》

佐賀県を舞台にしたTVアニメ「ゾンビランドサガ」とコラボした当スタンプラリーは、200程の県内観光施設・宿泊施設をスタンプラリーポイントとして、複数箇所の電子スタンプを獲得することにより、抽選でアニメのグッズや県内産品等が当選するというイベントである。当館においては、来館者への広報、満足度向上のため、アニメコーナーもあわせてセッティングした。

《会期》2020年10月30日（金）～2021年1月31日（日）

《事業日数》78日間

《主催》一般社団法人佐賀県観光連盟

《事務総括》佐賀大学美術館事務室



佐賀大学美術館



スタンプラリーポイント
開催期間: 2021年1月31日まで



2. 展示記録(企画申請)

令和2年度 JA 共済 小・中学生 第56回書道・第46回交通安全ポスターコンクール

《展示会概要》

JA 共済が文化支援事業として毎年実施している全国規模のコンクールの入賞作品展。応募された小・中学生の書作および交通安全ポスターの中から、県内で入賞を果たした作品324点が展示された。会期中の10月31日にマリンピアにて金賞受賞者の表彰式を開催した。

《会期》2020年10月29日(木)～11月5日(木)

《日数》7日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2

《主催》佐賀県内JA、JA 共済連佐賀

《後援》佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県警察本部、佐賀県農業協同組合中央会、NHK 佐賀放送局、サガテレビ、エフエム佐賀、佐賀新聞社、日本農業新聞



第10回 璞友会展

《展示会概要》

今年で11回目を迎えた「璞友会」の書道の作品展。佐賀県内で書を学んでいる指導者と生徒15名が日頃の研鑽の成果を発表した。2020年度は、書作の他に立体的な平面作品も発表され、合計21点が展示された。

《会期》2020年11月10日(火)～11月15日(日)

《日数》6日間

《会場》ギャラリー1

《主催》璞友会



SMAART2020 美術と社会の時間

《展覧会概要》

佐賀モバイル・アカデミー・オブ・アート（以下、SMAART）主催の佐賀および周辺地域のアーティストを招聘した展覧会。SMAARTは、2017年度から3年間にわたり、佐賀および周辺地域のアートマネジメント人材の育成を目指すプロジェクトを行ってきた。本展覧会はその一つの成果として開催、福岡県在住の美術ユニット SECOND PLANET や佐賀大学の学生の作品などが発表された。開催期間中には「いろいろ」「アートがうまれるジカン」のワークショップが行わ



れた。

《会期》2020年11月14日（土）～11月15日（日）

《日数》2日間

《会場》小展示室

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部

《助成》公益財団法人カメイ社会教育振興財団（仙台市）、公益財団法人日本教育公務員弘済会佐賀支部、公益財団法人金子財団



総合展2020 —connect—

《展覧会概要》

本学の芸術地域デザイン学部学生、1～3年生が主体となって企画、運営、展示をした展覧会。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、学内での制作に制限を受けながらも47名が平面作品から、立体作品、映像、インスタレーションまで様々な作品、計49点を出品した。また、オンライン上で「オンライン美術館」というサイトを開

設し、鑑賞を幅広い層からのアクセスを試みた。

《会期》2020年11月19日（木）～11月28日（土）

《日数》9日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部総合展2020実行委員会



第61回 佐賀県学童美術展

《展覧会概要》

佐賀県内の園児および小・中学生が授業で制作した絵画、デザイン、線描を600点展示した。小・中学生の学校、各地区、最後に本部の審査で特選を受賞した作品が並んだ。児童・生徒の作品を鑑賞するため、多くの家族連れで賑わい、2,400人を超える来場者を迎える展覧会となった。

《会期》2020年12月2日(水)～12月6日(日)

《日数》5日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》佐賀県造形教育研究会

《後援》佐賀県教育委員会



第36回 佐賀県高等学校美術教師作品展 第10回 生徒授業作品展「これが高校美術だ!」

《展覧会概要》

佐賀県内の高校で美術を教える教師32名による展覧会。第36回は、絵画、彫刻、デザイン、映像メディアなど様々な素材の作品、42点が展示された。今年度も、県内高校の授業作品展「これが高校美術だ!」を併催し、今日の高等学校における美術教育の取り組みが

紹介された。

《会期》2020年12月16日(水)～12月20日(日)

《日数》5日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》佐賀県高等学校教育研究会芸術部会美術部会



環ジョウ交さ点 2021

《展覧会概要》

本学芸術地域デザイン学部と東京藝術大学の有志学生による合同展覧会。本学からは院生を中心に7名、東京藝術大学からは3名の学生が参加した。会期前の内覧会（12月24日）では、出品者によるギャラリートークが開催され、交流を深めた。また、本展に関連した展示を群馬と東京の会場にて開催した。



《会期》2021年1月5日（火）～1月12日（火）

《開館日数》7日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室

《主催》環ジョウ交さ点実行委員会

《協力》佐賀大学芸術地域デザイン学部、地域デザイン研究科



がばいアーティストたち これだれが描いたの? vol. 3

《展覧会概要》

社会福祉法人はるが招聘したアーティストと本学芸術地域デザイン学部の学生の合計23人のアーティストによる展覧会。障がいを持ったアーティストが制作した作品を白いTシャツをキャンバスにプリントし展示、その原画などを展示した。また、会期中スタジオでは、Tシャツにカラーペンで思い思いに絵を描いたり、手形カードに装飾を施し



たりする参加型ワークショップも開催された。

《会期》2021年1月19日（火）～1月23日（土）

《開館日数》5日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》Saga ArtBrut Network Center (SANC)



第45回 佐賀県高等学校書道教師書作展
 第45回 佐賀県高校臨書展（生徒優秀作品展示）

《展覧会概要》

佐賀県内の高校で書道を担当する教員が授業・研究会の他に、年に一度の書作発表の場として開催している展覧会。教員32名、56点の書、掛軸、篆刻などを展示した。高校生徒臨書展の優秀作品も合わせて展示し、様々な年代の来館者を迎えることができた。

《会期》2021年2月3日（水）～2月7日（日）

《日数》5日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》佐賀県高等学校教育研究会書道部門

《共催》佐賀県高等学校文化連盟書道専門部

《後援》佐賀県書道教育連盟



佐賀大学芸術地域デザイン学部・大学院地域デザイン研究科 デザインコース
 卒業・修了制作展

《展覧会概要》

芸術地域デザイン学部および文化教育学部美術・工芸課程、大学院地域デザイン研究科の学部生・大学院生による卒業・修了制作展。西洋画、日本画、視覚伝達デザイン、彫塑、有田セラミック、漆・木工、ミクストメディア、美術史・美術理論、地域コンテンツデザイン、フィールドデザイン、キュレーション分野を学ぶ学生たちが、学生生活の集大成となる作品を展示した。なお本展は2016年に開設さ

れた芸術地域デザイン学部にとって初の卒業生による展示となった。

《会期》2021年2月11日（木）～2月21日（日）

《日数》10日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室、歴史展示スペース

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部、佐賀大学大学院地域デザイン研究科



暮らしの日本画展

《展覧会概要》

大正から昭和初期にかけて活躍した日本画家の美人画を展示。
暮らしの中の美を掲示した。

《会期》2021年2月25日(木)～2月28日(日)

《日数》4日間

《会場》小展示室

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部 地域デザインコース
レーション実務実践



佐賀大学教育学部附属特別支援学校 第5回 児童生徒作品展

《展覧会概要》

佐賀大学教育学部附属特別支援学校が、児童生徒の授業作品
や学習の様子を紹介し、広く活動を周知するとともに、展示・鑑賞を
通じて児童生徒の情操の学習に取り組むため毎年催している展覧
会。

特別支援学校で学ぶ知的障害を持つ児童生徒による図工・美術

作品、作業製品、学習活動で制作した作品や教材を展示した。

《会期》2021年3月2日(火)～3月7日(日)

《日数》6日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2

《主催》佐賀大学教育学部附属特別支援学校



佐賀大学学生書作展 : My Life~Art of 書道

《展覧会概要》

佐賀大学教育学部芸術地域デザイン学部書道同好会による卒業書作展。佐賀県書作家協会展、佐賀県書道展、県展などに積極的に取り組んできた学生の集大成となる書作と指導教官1名の賛助作品、合わせて15点を展示した。

《会期》2021年3月4日(木)～3月7日(日)

《日数》4日間

《会場》小展示室

《主催》佐賀大学書道同好会



都市工学専攻・都市工学科修了卒業制作展

《展覧会概要》

理工学部都市工学科で学んだ学部4年生と大学院2年生の修士制作・卒業制作展。未来的は建築デザインや都市デザインを提案する建築模型や、地形・風土に合わせた地域模型やプレゼンボードなど様々な作品を展示した。

《会期》2021年3月5日(金)～3月11日(木)

《日数》6日間

《会場》スタジオ

《主催》佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻・佐賀大学理工学部都市工学科



西洋画専攻企画展「BoS」

《展覧会概要》

芸術地域デザイン学部芸術表現コース西洋画専攻一同による展覧会。100点を超える学生の自由な発想とエネルギーに満ちた作品の展示となった。

《会期》2021年3月10日（水）～3月21日（日）

《日数》11日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2

《主催》佐賀大学芸術地域デザイン学部



3. 実習

概要

2016年より当館での博物館実習の学内生の受け入れが始まった。2020年度は学芸員資格取得希望者に対し、展示監視および、収蔵庫見学、展示照明、作品クリーニングの実習を館内で行った。

《実習名》博物館実習 監視実習

《内容》博物館学内実習の一環で、芸術地域デザイン学部吉住磨子先生および学芸員の指導のもと、展覧会における監視実習を行った。学部1年生から大学院2年生までが参加し、特別展「美術館で身体を考える」および「常設展 第2期」の監視実習を行った。

《期間》2020年10月6日(火)～10月25日(日)、2020年12月1日(火)～2021年1月30日(土)

10:30～12:00、13:00～14:30、14:40～16:10 ※1人2回ずつ担当

《参加者》48名



《実習名》博物館実習 収蔵庫見学

《内容》博物館学内実習の一環で、芸術地域デザイン学部石井美恵先生および学芸員の案内のもと、収蔵庫見学を行った。参加者は芸術地域デザイン学部の編入生および1年生併せて29名で、3グループに分かれて準備室、搬入口、収蔵庫などを見学した。

《期間》2020年12月4日(金) 14:40～16:10

《参加者》29名

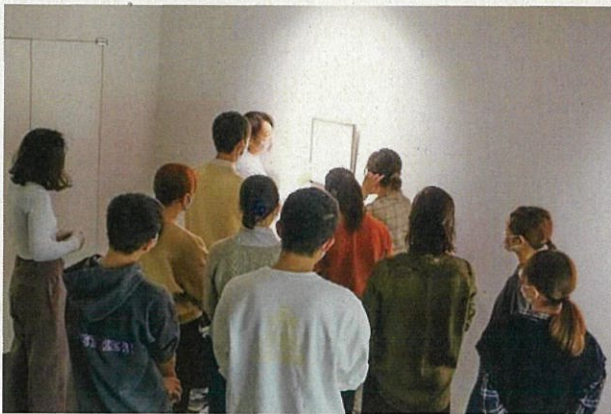


《実習名》博物館実習 展示照明

《内容》学芸員養成課程「博物館資料論」において、芸術地域デザイン学部石井美恵先生の指導のもと、作品の展示照明（ライティング）実習を行った。当館小展示室にて学部2年生から大学院2年生までが、4グループにわかれ平面作品と立体作品の性質に留意しながら照明を当て、展覧会における照明の方法について理解を深めた。

《期間》2020年10月31日（土）、11月7日（土）10:40~16:00

《参加者》19名



《実習名》博物館実習 クリーニング

《内容》学芸員養成課程「博物館資料論」において、芸術地域デザイン学部石井美恵先生の指導のもと、作品のクリーニングを行った。クリーニングの対象となった作品は当館が所蔵するもので、実際に作品に触れながら学ぶ機会となった。またオンラインで実習の様子を配信する試みも行った。

《期間》2020年12月1日（火）、8日（火）、15日（火）、2021年1月12日（火）10:40~12:00

《参加者》31名



4. 刊行・掲載・見学

〔刊行物〕

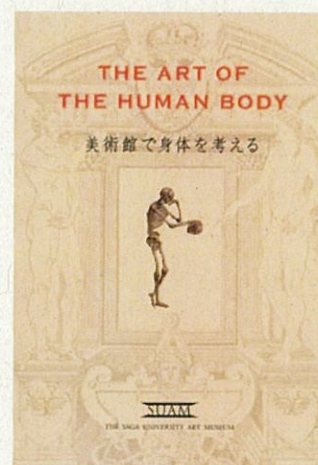
図録『美術館で身体を考える』

〔概要〕図録

〔仕様〕A 4判 80頁

〔発行部数〕1,000部

〔発行日〕2020年9月29日



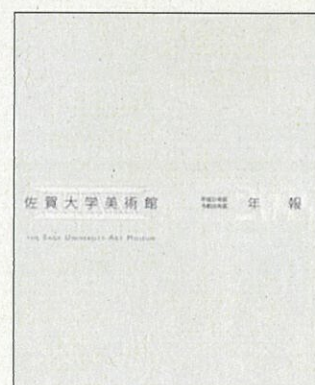
『佐賀大学美術館平成31年度令和元年度年報』

〔概要〕年報：館概要/沿革/組織図/2019年度の活動

〔仕様〕AB版 38ページ 4色刷

〔発行部数〕500部

〔発行日〕2021年2月28日



〔掲載紙・テレビ・ラジオ〕 2020年度は総数で新聞等43件、TV・ラジオ5件が掲載・放送された。
 ※本頁は館主催事業についての報道のみ抜粋

- ・ 展覧会「常設展 第1期」(4月1日 佐賀新聞)
- ・ 医学の進歩にみる身体の美 佐大美術館で展覧会「美術館で身体を考える」(10月6日 佐賀新聞)
- ・ 人間の身体美術館で考えよう 佐賀大で企画展「美術館で身体を考える」(10月9日 朝日新聞)
- ・ 人の身体考える 書物など60点「美術館で身体を考える」(10月9日 西日本新聞)
- ・ 私の主張 医療はアート、アートは医療「美術館で身体を考える」(10月23日 佐賀新聞)
- ・ 佐賀大美術館で常設展 四季折々の郷土風景、戦地の同僚に「常設展 第2期」(12月11日 佐賀新聞)
- ・ 郷土の風景、情緒豊かに“田園の画家”北嶋兵一展「北嶋兵一が見た景色」(12月15日 佐賀新聞)
- ・ きょうの催し「北嶋兵一が見た景色」(12月16日 佐賀新聞)
- ・ てれび宣伝隊「美術館で身体を考える」展(サガテレビ)
- ・ 佐賀のニュース「美術館で身体を考える」展(NHK)
- ・ 不明「美術館で身体を考える」展(ぶんぶんテレビ)
- ・ ただいま佐賀「美術館で身体を考える」展(NHK)
- ・ 特集「美術館で身体を考える」展(佐賀新聞)
- ・ 記事「美術館で身体を考える」展(朝日新聞)
- ・ 投稿「美術館で身体を考える」展(佐賀新聞)

〔見学団体一覧〕 ※事前連絡および申告にて把握できた団体名称および人数。
 ※参加者数に引率者を含む。

期日	団体名	人数
10月7日	経済学部 1年生 入門ゼミ(櫻沢)	19
10月14日	経済学部 1年生 入門ゼミ(櫻沢)	7
10月23日	経済学部 3年生 内山ゼミ	26
10月30日	経済学部 1年生 平地(入門ゼミ)	18
12月5日	からふる小城	5

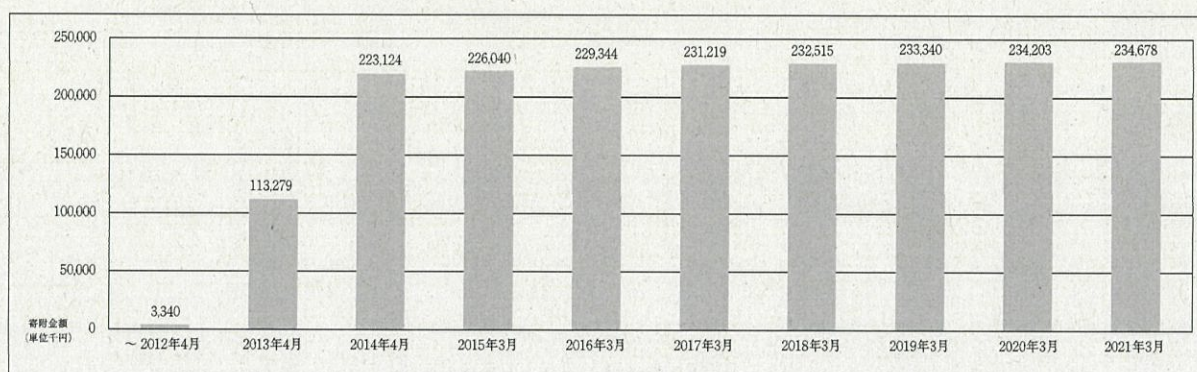
期日	団体名	人数
12月24日	芸術表現A 西洋画 小木曾 八頭司	28
2月5日	佐賀清和1-6.7	26
2月11日	らいふステージ神埼	11
2月20日	佐賀市観光協会 SAGA MADO	9

2020年10月7日～2021年2月20日

5. 寄附

[美術館設置募金の経緯]

- 2011年6月 美術館設置募金WG設置
2012年4月 美術館設置事業募金開始
2013年6月 寄附者芳名帳を公開
美術館規則の制定に伴い、美術館設置募金WGを解散
9月 美術館に高額寄附者銘板を設置
10月 美術館開館後も美術館設置事業募金を継続
2021年3月 募金総額234,678,792円(2021年3月31日現在)



6. 職員の館外調査研究・研修等

出口智佳子

日時: 2020年6月3日(月)~7日(金)

場所: 国立西洋美術館

目的: 令和元年度国立美術館キュレーター研修「美術館コレクションの活用と近代美術作品調査」

出口智佳子、廣木 昭則

日時: 2020年12月25日(金) 10:30-15:15

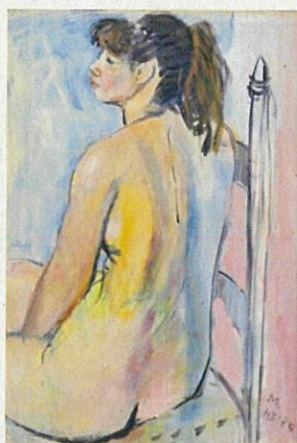
場所: 佐賀勤労者総合福祉センター(メートプラザ佐賀)

目的: 令和2年度著作権セミナー「著作権に関する基礎的な理解を深め、著作権制度の知識や意識の向上」

7. 新収蔵作品

令和2年度に佐賀大学の所蔵となった物品の内、佐賀大学美術館が保管もしくは管理する作品。

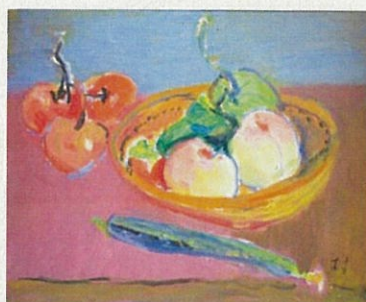
収蔵年	作家名	作家名_E	作品名	作品名_E
2020	村岡 平蔵	MURAOKA, Heizo	裸婦	Nude
2020	村岡 平蔵	MURAOKA, Heizo	裸婦	Nude
2020	村岡 平蔵	MURAOKA, Heizo	果物と野菜	Fruits and Vegetables
2020	村岡 平蔵	MURAOKA, Heizo	あじさい	Hydrangea
2020	村岡 平蔵	MURAOKA, Heizo	風景	Landscape
2020	村岡 平蔵	MURAOKA, Heizo	裸婦スケッチ	Nude
2020	村岡 平蔵	MURAOKA, Heizo	裸婦スケッチ	Nude



村岡平蔵〈裸婦〉



村岡平蔵〈裸婦〉



村岡平蔵〈果物と野菜〉



村岡平蔵〈あじさい〉

分類	制作年(和暦)	制作年(西暦)	寸法(H×W×D)	素材	出品歴	寄贈者
西洋画	不明	不明	F 12 (610×400)	カンバス、油彩	-	綾部伸孝
西洋画	不明	不明	M30 (900×610)	カンバス、油彩	-	綾部伸孝
西洋画	不明	不明	F 8 (455×379)	カンバス、油彩	-	綾部伸孝
西洋画	不明	不明	F 10 (530×455)	カンバス、油彩	-	綾部伸孝
西洋画	不明	不明	150×220	紙、ペン、油彩	-	綾部伸孝
スケッチ	不明	不明	270×355	紙、鉛筆	-	綾部伸孝
スケッチ	不明	不明	410×300	紙、鉛筆	-	綾部伸孝



村岡平蔵〈風景〉



村岡平蔵〈裸婦スケッチ〉



村岡平蔵〈裸婦スケッチ〉

8. 入館者一覧表

※数値に重複あり

展覧会	入場者数	会期	日数	主催	展示会場
特別展「美術館で身体を考える」	1,896	9月29日-10月25日	24	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、特別展示室、小展示室
常設展示第2期	4,015	11月6日-3月28日	110	佐賀大学美術館	特別展示室
令和2年度JA共済小・中学生第56回書道・第46回交通安全ポスターコンクール	1,199	10月29日-11月5日	7	JA共済	ギャラリー1、ギャラリー2
第10回 瓊友会	643	11月10日-11月15日	6	瓊友会	ギャラリー1
SMAART2020 美術と社会の時間	372	11月14日-11月15日	2	SMAART	小展示室
総合展2020 —connect—	904	11月19日-11月28日	9	第62回総合展実行委員会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
第61回佐賀県学童美術展	2,415	12月2日-12月6日	5	佐賀県造形教育研究会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
第36回佐賀県高等学校美術教師 第10回生徒授業作品展「これが高校美術だ!」	562	12月16日-12月20日	5	佐賀県高等学校教育研究会芸術・美術部会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
北嶋兵一が見た景色	679	12月15日-12月20日	6	地域学歴史文化研究センター、佐賀大学美術館	小展示室
環ジヨウ交差点2021	477	1月5日-1月12日	7	地域デザイン研究科学生作品展企画委員会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
がばいアーティストたちこれ誰が描いたの?Vol.3	743	1月19日-1月23日	5	Saga ArtBrut Network Center (SANC)	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
第45回 佐賀県高等学校書道教師書作展 第45回 佐賀県高校臨書展(生徒優秀作品展示)	940	2月3日-2月7日	5	佐賀県高等学校教育研究会書道部門	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
佐賀大学芸術地域デザイン学部・大学院地域デザイン研究科デザインコース卒業・修了制作展	2,008	2月11日-2月21日	10	佐賀大学芸術地域デザイン学部、佐賀大学大学院地域デザイン研究科	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
暮らしの日本画展	120	2月26日-2月28日	4	佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコースキュレーション実務実践	小展示室
佐賀大学教育学部附属特別支援学校 第5回 児童生徒作品展	404	3月2日-3月7日	6	佐賀大学教育学部附属特別支援学校	ギャラリー1、ギャラリー2
都市工学専攻・都市工学科・修了卒業制作展	565	3月5日-3月11日	6	理工学研究科・理工学部建築環境デザイン学部	スタジオ
佐賀大学学生書作展:My Life~Art of 書道	294	3月4日-3月7日	4	佐賀大学教育学部芸術地域デザイン学部 書道同好会	小展示室
西洋画専攻企画展「BoS」	805	3月10日-3月21日	11	芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、2

令和2年4月1日～令和3年3月31日

[年度別入場者実績]

※数値に重複なし

	総入館者数	うち有料入館者数	開館日数
平成25年度	27,167	0	125
平成26年度	40,780	2,652	254
平成27年度	37,965	0	281
平成28年度	38,474	0	291
平成29年度	34,718	0	285
平成30年度	31,883	0	273
平成31年度	30,698	0	280
令和2年度	13,929	0	140

II 自己点検・評価

令和2年度までの美術館運営の特徴について

当美術館は平成25年度10月に新制佐賀大学(旧佐賀大学と佐賀医科大学統合による)10周年を記念して開館した。国内で初の国立総合大学に附属する美術館であり、様々な展示事業を通じて大学の情報や教育・研究の成果を発信するとともに、地域のコミュニティセンターとして市民の方からも気軽に大学に足を運んでもらうきっかけとなることを目指している。

この目的のために大学内の施設ながら常時一般公開し、また、市民団体にも活動の場を提供しながら年間を通して開館している。オープンから令和2年度末までの7年半に167本の事業が行われ、約25万6千人の入館者があった。来館者の層は学生や教職員など大学関係者にとどまらず、市民の一般観覧、近隣小中高校からの団体見学など幅広い。所在地の人口に対する入館者の割合でみると他の大学博物館・美術館では高いところでも3%台(平成27年度本学アンケート調査)だが、当館は平均して約13%と利用率が非常に高くなっている。この数値は「開かれた大学」を象徴する施設としての存在意義を示すと同時に、芸術活動が日常にとけ込んでいる佐賀の文化風土に由来する当館の大きな特長である。

このような市民を含めた利用率の高さや、「特美」に由来する美術・工芸教育の伝統と質、芸術と他領域を結びつける総合大学ならではの学際的な試み、佐賀の文化・芸術の紹介等を、卒業生を含む周囲の関係者との緊密な協力関係のもとに実施できることは当館の強みとなっている。

なお、令和2年度は新型コロナウイルス拡大に伴い全国の美術館・博物館では閉館、あるいは展覧会の中止や延期、さらに来館者の大幅な減少など非常に困難な状況であった。当館においも当該年度の開館は、主催展が開催される9月29日まで待たなければならず、前期に行われる予定の企画展は中止または延期を余儀なくされている。このような現況下であることも踏まえつつ、以下開館8年目を迎えた令和2年度の主な活動について報告し、項を改めて今後の課題について検討したい。

1. 令和2年度の活動の概略

令和2年度は、佐賀大学美術館が開館してから8周年を迎えた年であった。主催特別展として、「身体」というテーマを軸に、美術や美術教育の歴史、医学発展の足跡や日進月歩する今日の医療技術などについて、学内の活動とその成果を広く紹介した「美術館で身体を考える」展を開催した。また、小城市出身の画家であり佐賀藩主鍋島直正の一生を描いた「直正公御実歴一百図」を担当した北嶋兵一について、「北嶋兵一が見た景色」と題した展覧会を地域学歴史文化研究センターとの共催にて開催した。さらに当館は2013年の開館以来佐賀大学の美術教員はじめ佐賀にゆかりのある作家達の芸術作品を収集してきたが、当館のコレクションを恒常的に学生はじめ地域の方々へ一般公開し、佐賀や佐賀大学における美術の様相を紹介すべく常設展を開催した。予定していた1期常設展は閉館中であったため、「常設展示 第2期」として、本学前身の一つである佐賀師範学校で美術教員として働いていた山口亮一と彼が教え子たちに描かせた慰問絵巻や本学教育学部教授で美術教育を担った深川善次の人物油彩画の展示を行った。

その他の活動として、コロナ禍の中奮闘される医療従事者の方への感謝と激励を込め美

術館東側窓をライトアップした「ブルーライトアップ」、アルツハイマー月間にあわせて認知症サポーターのシンボルカラーであるオレンジでライトアップした「オレンジライトアップ」を実施した。さらに当館の広報、満足度向上の一環として一般社団法人佐賀県観光連盟が県内施設等への誘客拡大、観光促進を目的として実施している「佐賀県×ゾンビランドサガスタンプラリー」キャンペーンへ参加した。

展示やイベント以外では、佐賀ゆかりの画家の作品収集、資料の保存管理、博物館実習生の受け入れ、県内外からの見学や視察及びメディアへの対応、寄附金の収受などを行った。

以上の取組により、令和2年度9月末からの通常年の約半期間において、13,929人の入館者を迎えることができた。例年の5割弱の入館者数ではあるが、新型コロナウイルスの拡大防止のため開館期間自体が約1/2であったこと、さらに県内や全国多くの他の美術館・博物館では1日あたりの来館者が例年の5割、7割減ともいわれる状況下においては、むしろ最小の影響にとどめることができたとの評価もできる。

企画申請事業を主催する学外の団体に対しての使用料は、元年度は3件、357千円となった。昨年度と比して収入額は442千円ほど減少、光熱水料相当額の振替額は85千円であった。その結果、総額は442千円となり前年度の937千円から495千円の減少となっており、企画申請事業に伴う収入面では新型コロナウイルス拡大防止のための開館期間短縮や企画展の中止などによる影響が大きかったことが伺える。

(1) 美術館主催事業

「大学の紹介・広報・研究成果の発表」「大学の所蔵品の調査・公開」「〈特美〉から現在までの本学の美術・工芸に関連する人と作品」「地域の文化伝統の解題・アーカイブ」「総合大学の美術館としての特色を生かした展示」等に焦点をあてる。

- ① 「美術館で身体を考える」では、第1章として優れた画家であり科学者でもあったレオナルド・ダ・ヴィンチの解剖図や幕末・明治期の佐賀藩の先進的な医学を紹介、2章においては、佐賀ゆかりの画家であり東京美術学校で教えた久米桂一郎や岡田三郎助の身体表現を、第3章では「補完される身体、拡張する身体」と題して佐賀大学における最新の医療技術である人工股関節や義肢などの他、解剖図の最先端であるメディカルイラストレーションを、第4章では、人の心の「重み」を表現するアーティストによる作品、パフォーマンス等を紹介した。
- ② 「北嶋兵一が見た景色」では、郷土の風景画を数多く残し“田園の画家”とも呼ばれた小城市牛津町出身の画家・北嶋兵一について、彼が描いた数々の地域の風景作品を地域学歴史文化研究センターとの共催において紹介した。
- ③ 「常設展 第2期」では、佐賀師範学校で美術教員として教鞭をとった山口亮一及び教え子たちによる慰問絵巻や元本学教育学部教授として美術教育を担った深川善次の人物油彩画等を紹介した。

(2) 企画申請事業

- ① 学内利用に関しては、本学の教職員全員にメールを配信し、教育研究の成果発表や授業の一環としての展示室利用について企画を受付けることを教職員にも公平に周知している。

令和2年度における学部・学生による作品の展示としては、芸術地域デザイン学部主催による「SMAART2020 美術と社会の時間」、同学部西洋画専攻による「Bos」展、同学部1～3年生による「総合展-connect-」、同学部を主とする学生

有志による「環ジョウ交差点 2021」、同学部及び地域デザイン研究科による「佐賀大学芸術地域デザイン学部・大学院地域デザイン研究科デザインコース 卒業・修了制作展」、同学部地域デザインキュレーション実務実践による「暮らしの日本画展」、書道同好会による「学生書作展:My Life~Art of 書道」の他大学院工学系研究科都市工学専攻、理工学部年工学科による「都市工学専攻・都市工学科修了卒業制作展」、また附属特別支援学校主催による「児童生徒作品展」などが開催された。

- ② 学外からの企画申請は、美術館ホームページ及びフェイスブックで周知した。主な学外者の事業としては、JA主催の小・中学生ポスター・書道コンクール展、佐賀県造形教育研究会による学童美術展、佐賀県高等学校教育研究会芸術部会による高等学校美術教師・生徒作品展、佐賀県高等学校教育研究会書道部門による高校書道教師作品展・高校臨書展などがあり、初等教育から中等教育、そして市民活動まで、地域の文化活動に発表の場所として定着しつつあることを示しているといえる。特に学童美術展は、新型コロナウイルスの影響下にあっても5日間の会期中に2,415人の来館者が訪れ、昨年を引き続き最も館内を賑わせた展覧会となった。

(3) 実習・研修事業

平成28年4月の芸術地域デザイン学部開設に伴い、地域デザインコースが設けられ、令和2年度は学芸員資格取得希望者に対し、監視実習、収蔵庫見学および展示照明実習、クリーニング実習を行った。

(4) 刊行物の発行

令和2年度は、美術館主催事業「美術館で身体を考える」展において図録を発刊したほか、平成31・令和元年度の事業活動をまとめた「佐賀大学美術館平成31年度令和元年度年報」を発行した。

(5) 掲載紙・テレビ取材等

当館で開催される事業の広報については、当館ホームページやフェイスブックなどで逐次情報を提供することで費用のかからない広報宣伝と事業の報告に努めている。令和2年度にメディアでの掲載・放映は、新聞等43件、テレビ・ラジオ5件が取り上げられた。

また例年通り見学団体・視察等を随時受け入れたが、一部学内ゼミ等の他は、中・高校等の学校関係や学外団体による来館は大きく減少した。

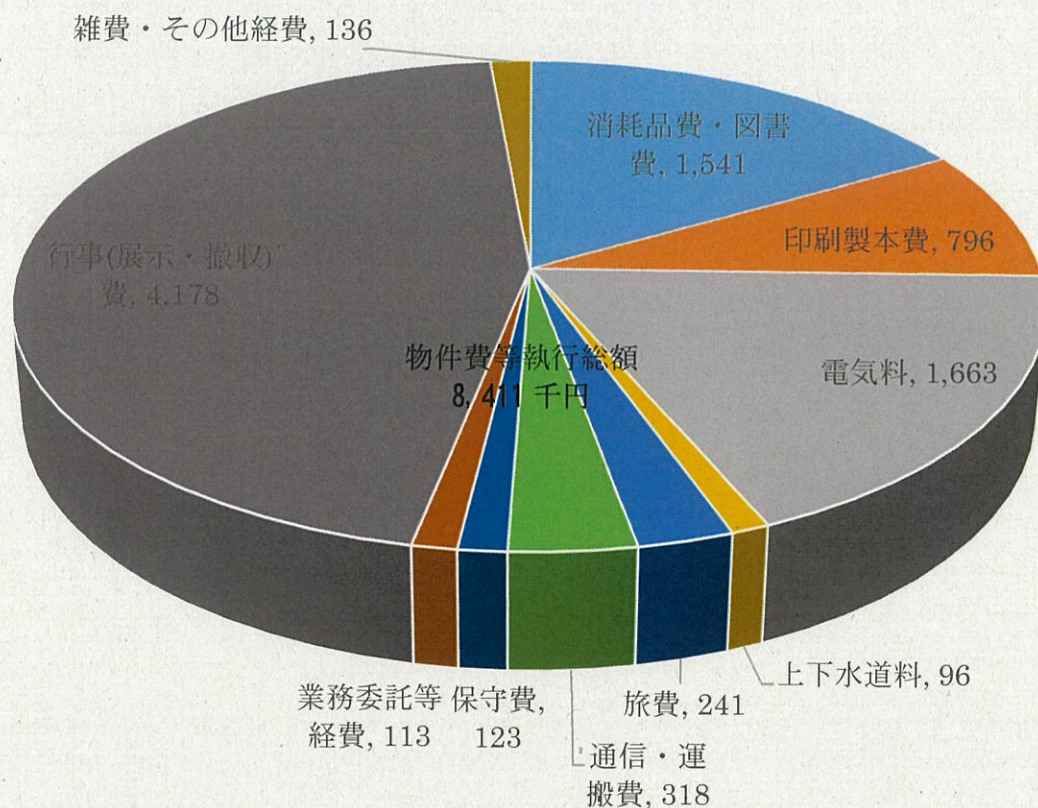
(6) 資料収集・保存

平成26年度より寄贈作品の受け入れを開始し、今年度は寄贈者の申し出により、作品調査を行い村岡平蔵氏の西洋画7点の寄贈を受けた。

(7) 運営費の執行状況

令和2年度に美術館運営のために執行した経費の額は、非常勤職員（学生等アルバイト等を含む。）人件費等5,249千円、物件費等9,205千円（内訳は以下のとおり）、計14,454千円であった。

令和2年度 物件費等執行額内訳



2. 今後の課題等

大学美術館としての理念に基づく展示企画，作品収集・保存の状況，館運営などのバランスの中で年間スケジュールを構成してきた。開館から7年が過ぎ，大学及び学生，そして地域社会に資するような活動についても実績を積んできた。一方で，今後も継続的に美術館を運営するためには，常に課題の所在を念頭に置きつつ多方面と問題を共有し，助言・協力を仰ぎつつ，実現できるところから順次取り組みを進めていく必要がある。

(1) 美術館の運営費等

開館以来，美術館の運営費の継続的な確保は最大の課題となっている。寄附募集は継続しているが，寄附件数・金額とも減少しており，大幅な改善は見込めず，法人からの予算措置により運営している。

このような状況の下，安定した運営費の確保に資するため，平成26年度以降，施設使用者に対して光熱水費の実費を，さらに平成27年度からは学外者については展示室使用料を徴収している。令和2年度におけるこれらの収入は442千円となり，平成31・令和元年度の年間約937千円からは494千円の減額となっているが，新型コロナウイルスという非常に稀な外部的要因に起因するところが大きく，経年的視点では安定した収入となっていることも事実である。（表1）

また，平成28年度以降，主催展事業費確保のため，独立行政法人日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金助成金の地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）に要望書を提出し助成金を獲得している。（表2）

自己収入策の検討は継続した課題であるが，特に寄附金の獲得増加策について

は、平成29年3月に法人としての方針が決定され、法人全体で取り組んでいるところである。

今後も引き続き大学美術館として、地域や社会の理解を深める事業を行い、大学美術館の活動に理解を得るよう努めていきたい。

(表1) 美術館貸付料収入等の推移(平成26年度～令和2年度) 単位:円

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31・令和元年度		令和2年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
現金等収入			13	349,252	10	401,800	9	564,000	12	634,000	7	799,000	3	357,000
学内予算振替	8	515,601	8	137,385	10	256,999	10	172,119	13	206,171	8	137,963	7	85,312
計	8	515,601	21	486,637	20	658,799	19	736,119	25	840,171	15	936,963	10	442,312
前年度差引増減(△)額		-		△28,964		172,162		77,320		104,052		96,792		△494,651

(表2) 助成金収入等の推移(平成28年度～平成30年度) 単位:円

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31・令和元年度		令和2年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
芸術文化振興基金助成金	1	1,353,000	1	1,130,000	1	858,000	1	720,000	1	1,014,000

(2) 美術館活動と学芸員

これまで当館は、正規事務職員1人、再雇用職員1人、及び非常勤職員(学芸員:パートタイム)3人体制で活動してきたが、令和2年度は、学芸員の退職者補充ができなかったため実質学芸員1人での活動を余儀なくされた。このことは、主催展の企画・運営、外部申請企画展への対応、学生の実習サポートの他、本来的に学芸員が専門性をもってあたるべき職務への影響が不可避な状況となっている。

現時点で可能な方策として、事務職員と学芸員の業務分担の見直しを行い、学芸員の負担を軽減できるよう事務職員との協働体制で対応してきた。しかしながら健全な美術館活動の実現のためには、必要な学芸員の確保、またそのための処遇改善などが喫緊の課題であるといえる。

(3) 魅力ある主催事業開催と企画申請事業の充実

佐賀大学美術館は、地域における人口比での利用率は非常に高くこれまでの活動やその方針は是とするに十分であるものの、一方で来館者数および寄付金の獲得については低減傾向にあることも事実である。これまで以上に来館者に足を運んでもらえるような主催事業の開発と学内及び地域との連携による企画申請事業の充実に取り組んでいく必要がある。